

平成25年9月相模原市教育委員会定例会

日 時 平成25年9月5日(木曜日)午後2時30分から午後3時47分まで

場 所 相模原市役所 教育委員会室

日 程

1. 開 会

2. 会議録署名委員の決定

3. 議 事

日程第 1 (議案第51号) 平成27年度使用教科用図書の採択における採択地区に  
ついて(学校教育部)

4. 閉 会

出席委員(5名)

委 員 長 溝 口 碩 矩

委員長職務代理者 小 林 政 美

教 育 長 岡 本 実

委 員 大 山 宜 秀

委 員 田 中 美奈子

説明のために出席した者

教 育 局 長 白 井 誠 一 教育環境部長 大 貫 守

学 校 教 育 部 長 小 泉 和 義 生涯学習部長 小野澤 敦 夫

教 育 局 参 事 小 山 秋 彦 教育総務室 細 谷 正 行  
兼教育総務室長 担 当 課 長

総合学習センター 金 井 秀 夫 総合学習センター 大 塚 善 行  
所 長 担 当 課 長

学 校 教 育 課 長 西 山 俊 彦 学 校 教 育 課 馬 場 博 文  
課 長 代 理

学 校 教 育 課 主 幹 小 泉 勇 学 校 教 育 課 東 條 久美子  
担 当 課 長

学 校 教 育 課 林 由美子 学 校 教 育 部 参 事 奥 村 仁  
指 導 主 事 兼 教 職 員 課 長

教職員課主幹 二宮 昭夫 教職員課担当課長 菊池 政弘

事務局職員出席者

教育総務室主任 秋山 雄一郎 教育総務室主任 越田 進之介

開 会

溝口委員長 それでは、ただいまから相模原市教育委員会 9 月定例会を開会いたします。

本日の出席委員は 5 名で、定足数に達しております。

本日の会議録署名委員に、田中委員と私、溝口を指名いたします。

はじめにお諮りいたします。本日の会議を公開の会議とすることで、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

溝口委員長 では、本日の会議は公開といたします。

傍聴人の方は、お入りいただいて結構です。

越田教育総務室主任 傍聴の方、いらっしゃっていません。

溝口委員長 ありがとうございます。

平成 2 7 年度使用教科用図書の採択における採択地区について

溝口委員長 それでは、これより日程に入ります。

日程 1、議案第 5 1 号、平成 2 7 年度使用教科用図書の採択における採択地区についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

小泉学校教育部長 議案第 5 1 号、平成 2 7 年度使用教科用図書の採択における採択地区について、ご説明申し上げます。

本議案は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 1 6 条の規定に基づき、平成 2 7 年度使用教科用図書の採択における本市の採択地区については、本市の全ての区の区域をあわせた地域に設定し、一市一地区採択とすることを提案させていただきたく上程するものでございます。

具体的なことにつきましては、学校教育課長からご説明させていただきます。

西山学校教育課長 関係資料 1 の採択地区の定義をご覧いただきたいと思います。

教科用図書の採択地区につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 1 6 条の指定都市に関する特例規定によりまして、「指定都市の区の区域又はその区域をあわせた地域に、採択地区を設定しなければならない」とあります。

本市におきましては、政令指定都市となった平成22年度に一市一地区の採択といたしました。それ以降、採択地区につきましては、変更なしと決定していただいております。

ここで、関係資料の中ほど、平成27年度使用教科用図書採択までの流れをご覧いただきたいと存じます。

平成27年度に使用する教科用図書の採択地区につきましては、変更する場合は、神奈川県教育委員会への報告が求められております。平成26年度は、小学校で平成27年度から使用する教科用図書を新たに採択する年度であるため、ここで本市としての採択地区に関する意向を決定しておく必要がございます。

採択地区についてでございますが、案といたしましては、学校現場の声や保護者のご意見なども参考にし、検討した結果、現行の一市一地区採択を提案させていただきたいと存じます。

その理由でございますが、関係資料の下段、現行の一市一地区採択を提案する理由に示させていただきました。

1点目は、児童生徒の転出入に関することでございます。相模原市は、緑区から中央区へ、中央区から南区へなど、区間の転出入が多く、転校先でも同一の教科書を使用できることは子どもの安心感につながっております。また、基本的に、学校では教科書の構成に沿って学習指導を行うので、履修内容の漏れが生じるリスクが低いということもございます。

2点目は、小・中学校の地区に関することでございます。本市には、複数地区の小学校から児童が進学する中学校があり、例えば、中央区にある上溝中学校には、同じ中央区の上溝小、星が丘小、陽光台小と、緑区にある作の口小学校から児童が進学いたします。一地区採択の場合は、同一の教科書で学習してきた児童が入学してまいりますので、中学校において、学びの連続性を生かした授業づくりが可能となります。

3点目は、授業研究に関することでございます。教科指導の主たる教材である教科書が共通であることから、教員が授業研究を深め、相模原市として特色をつくり上げることができます。

以上の理由から、現行の一市一地区採択を提案させていただきたいと存じます。よろしくご決定くださるよう、お願い申し上げます。

溝口委員長 ただいま説明が終わりました。これより質疑、ご意見等ございましたらお願いいたします。

大山委員 現行の一市一地区の採択を提案するというので、3つ理由が挙がりましてけれども、反面、何かデメリットというのは、何かあるのでしょうか。

西山学校教育課長 それぞれの小学校、中学校の校長会ともお話をさせていただきましたが、現行の一市一地区採択についてのデメリット等のご意見はいただいておりません。また、教育委員会といたしましても、この一市一地区採択についてのデメリットはないと思っております。よろしく申し上げます。

田中委員 この提案理由については、まさにそうだろうなと思っています。安心感という意味でも、転校しても同じ教科書が使えるというのは、子どもにとっても、ただでさえ転校という不安がある中で、今までやってきたことと違うことをやるのではなくて、教科書が一緒ということで、1つの共通の部分が見つけれられるという意味では、とてもいいのではないかなと思いますし、やはり区には分かれていますけれども、相模原市としての統一した教育ができるというのは、保護者にとってはありがたいと思います。

溝口委員長 教科書の内容については、例えば夏休み中に転校した場合、大体1学期はこの辺で終わっているというような内容の進度については、学校ごとにそれほど変わらないと考えてよろしいのですか。

西山学校教育課長 教科書、各学校の学習の進度につきましては、それぞれの学校の方で定めておりますが、年間決められている学習指導の時間数に応じて、教科書の順を追って進めるということを考えますと、1学期はここまで、そして2学期はここからということとは大方変更はないと、学校によって差異はないと私どもは捉えております。

溝口委員長 それでは、ほかに質疑、ご意見等ございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

溝口委員長 ありませんので、これより採決を行います。

議案第51号、平成27年度使用教科用図書採択における採択地区についてを原案どおり決めるにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

溝口委員長 ご異議ございませんので、議案第51号は可決されました。

#### 第47回相模原市教育研究発表大会の結果報告について

溝口委員長 それでは、事務局から報告事項があるようです。

報告事項1について、総合学習センターからお願いいたします。

金井総合学習センター所長 それでは、よろしくお願いいたします。

平成25年度、第47回になります教育研究発表大会につきまして、ご報告させていただきたいと思います。

先月、8月2日の金曜日に、相模女子大学グリーンホールにおいて、午前中、全体会・記念講演会、午後、分科会という日程の中で開催させていただきました。

例年、市民会館で開催しておるところですが、今年度につきましては、市民会館の改装工事の関係でグリーンホールでの開催となりました。分科会につきましても、相模大野近辺の公共施設及び相模原中等教育学校、それから相模原総合産業高等学校等のご協力を得まして、この周辺の各会場での分科会となりました。

全体会につきましては、記念講演を含めまして4点満点で参加者からアンケートを協力いただきまして、3.6点ということで、概ね満足していただけたのではないかと考えております。また、参加者の方々の感想を読みますと、講師でありました増田明美さんの温かい人柄や率直な話し方に大変共感を得たとか、ほっとするひとときであったというような感想をいただいております。

午後の分科会につきましては、各分科会3つの発表をしていただき、計30本の発表をいただきました。分科会ごとにテーマを設けまして、小・中学校の教員、公民館の職員、市民の方、幼稚園の先生や保育士さんなど、様々な参加者のご参加をいただく中、協議をしていただきました。

感想につきましては、資料の方にまとめております。

また、各協議会等で提言や発表があったもののうち、今後教育委員会として取り組んでいくべきこと等を拾い上げまして、簡単にまとめております。こちらにつきましては、この後、関係各課・機関の職員を含めた検討会を開きまして、教育委員会としての共有も図っていきたいと考えております。

資料におきましては、1ページ後半から2ページ、3ページ、4ページ、5ページと、各分科会の感想及び教育委員会としての今後の課題ということでまとめてあります。

簡単ですけれども、報告とさせていただきたいと思います。

溝口委員長 この件につきまして、何かご質問等ございますでしょうか。いかがでしょうか。

田中委員 夏休みのさなかに、先生方はこうやって子どもたちがいない間に研修をされて、このような機会があることはすばらしいなと思いました。全部回り切れなくて、1カ所し

か分科会も行けなかったのですけれども、とてもいい発表でしたし、参加させていただいてよかったなと思いました。ありがとうございました。

溝口委員長 ほかに何かございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

それでは、この件は、これでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

#### 物損事故が発生した学校における再発防止策について

溝口委員長 それでは、次に、報告事項2について、学校教育課からお願いいたします。

西山学校教育課長 5月4日に、南区内の市立中学校の課外活動中に発生いたしました物損事故につきまして、再発防止策等につきまして、改めてご報告をさせていただきます。

今回、事故が発生した中学校では、平成22年度にも課外活動で軟式野球をしていた際に、ボールが防球ネットを越えて、隣家の窓ガラスを破損する事故が2回発生しており、そのときは再発防止策として、防球ネットを高くする修繕策を実施しております。

過去にこうした対策を講じたにもかかわらず、同様の事故が起きてしまったことから、同校のグラウンドでは練習試合を実施しないといった対応がとられたほか、実戦形式の打撃練習は、近くに防球ゲージを置くとともに、打つ方向を変えて、現在、練習を行われております。

教育委員会といたしましては、今後、大きな制約を受けることなく、練習試合や打撃練習が実施できるよう、学校との調整を図りながら関係各課での検討を現在、進めているところでございます。

以上、説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

溝口委員長 この件については、何かご質問等ございますでしょうか。

前にも事故があって、今回あったということで、その間に防球ネットを高めたということですが、防球ネットの高さは何mぐらいあるのですか。

西山学校教育課長 現在、高くした状態で14mの高さになっております。

溝口委員長 どこの学校も大体14mぐらいあるのですか。

西山学校教育課長 通常の学校は11mというところを、さらにそこに3mをつけ足しまして14mという補強工事をさせていただいたところでの今回の事故でございます。

溝口委員長 ほかの学校は、大体11mですか。

西山学校教育課長 小学校につきましては8 m、中学校については10 mが基本でございます。状況に応じて11 mという学校もございます。

田中委員 14 mというのは、この道に沿った部分の全体が14 mなのでしょうか。

西山学校教育課長 長さが横80 mありますが、80 mの全てにわたり、高さは14 mとなっております。

大山委員 今後の対応なのですけれども、子どもたちの気持ちを考えながら、今後、練習試合とか、打撃練習ができるようにということなのですが、具体的な方向性としてどんなことが考えられるのか、お聞きしたいと思います。

それから、概況図を見ますと、防球ネットを越えた側の反対側というのは、駐車場だとか学校になっていまして、むしろ反対の方に移すというのは可能なのでしょうか。

西山学校教育課長 先ほど、ご説明をさせていただいた関係各課との検討ということでございますけれども、さらに防球ネットを4 m高くして、18 mにするということも検討させていただきましたが、そのためには、今ある支柱を撤去をして、新たに18 mに耐える支柱を立てることになります。そうしますと、撤去費等も含めまして、約5,000万円という費用がかかるというふうな概算が出ております。

また、工期も非常に長期にわたりまして、学校がある一定の期間、運動場が使用できないという状況も生じるというデメリットもございます。

また、今、大山委員ご指摘のバックネットの移設ということに関しましては、これは150万円程度でできるということですが、そちらの方向で打ったときに、また別の方向にネットをつくらなければならないとか、様々なことについて検討が必要かと思っております。

学校の意見を聞きながら、どういう状況が一番適切かということについて、検討していきたいと考えております。

小林委員 この概況図を見ると、ホームグラウンドですか、ホームのところは鋭角になっていますね。直角だと随分違ってきて、ボールが飛び出すこともないと思うのですが、こういう地形の学校は、他にもあるのでしょうか。

西山学校教育課長 全ての学校について調査をかけたわけではございませんが、私どもが知り得る範囲では、この学校については非常に特殊な形でございます。特にこのところには、開校以来バックネットを設けなければいけなかった位置でございます。サードベースのところのコーチャーズボックスが、背中がちょうどぎりぎりぐらいという状況です。



よってファールボールが、どうしてもレフト側に飛んでいくと、そのネットにぶつかって落ちるといった状況だったものが、今回ネットを越えてしまったと。これは非常に特別な例だと私たちは把握しておりますが、他の学校でも、奥行きがないなどの様々な状況がございます。

小林委員 こういうことで、地域から学校に、あるいは教育委員会に改善の要望などが出ているという話はないですか。

西山学校教育課長 地域からのご要望や、またご意見等については、学校の方には来ておりませんし、教育委員会の方にもそういうお話は来ておりません。

溝口委員長 平成25年5月4日から、この学校では、練習試合とか打撃練習がまず制限を受けているわけですけれども、なるべく早く、こういう制限がなく部活動ができるような方策を講じてあげたいと思います。学校教育課に限らず、教育委員会として、何らかの方策を早く講じてほしいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

溝口委員長 では、この件はよろしいですか。

(「はい」の声あり)

#### 平成25年度実施教員採用候補者選考試験について

溝口委員長 それでは、次に、報告事項3について、教職員課からお願いいたします。

奥村教職員課長 それでは、今年度の教員採用候補者選考試験の実施結果について、ご報告いたします。

本年8月5日から10日までに実施いたしました第2次試験の結果、最終合格者190名、次年度の採用候補者として名簿登載をして、8月30日に合格発表をしたところでございます。

お手元の資料は、最終結果、受験者数や倍率についてまとめたものでございますので、それに基づきましてご説明申し上げたいと思います。

主なところで申し上げます。一番上が小学校でございますが、募集数100に対しまして、応募者458、第1次試験合格者307、第2次試験合格者107名、倍率は3.7倍でございました。

中学校は、教科別にまとまっておりますが、一番下、英語の下でございますが、合計欄

で申し上げます。65人の募集に対しまして、最終合格者79名、倍率は5.8倍でございました。養護教諭2人の募集に対しまして、37名の受験者、最終合格者4名、倍率は9.3倍。最終合格者190名、倍率は4.7倍でございました。

一番右端に、参考として前年度の倍率が載ってございますが、昨年度実施試験に比べ、それぞれの倍率が減少しました理由といたしましては、受験者数が総数として100名ほど減少したことで、その逆に採用数が増加したことが、本年度の倍率、低下して見えるかと思えますけれども、そういったことが原因かと考えております。

また、2次試験におきましては、昨年度に引き続きまして人物重視の選考を行いまして、本市の教員になりたいと希望する優秀な人材を採用できたと考えております。

下の方に、年代別の合格者の割合が載ってございます。全体を通じまして190名の内訳の中、20歳代の合格者が162名、これは全体の85.3%に当たります。昨年度、20代は73.1%でございましたので、これを大きく上回りました。次年度、20代の若者が多く学校現場に入っていくといったようなところが結果でございます。

今後の採用にかかわる予定でございますけれども、合格者が安心して4月を迎えていくことができますように、本市教育施設での合格者体験スクール、あるいは採用前研修などを、現在、計画しているところでございます。

以上、ご報告申し上げます。

溝口委員長 この件について、ご質問等ございますでしょうか。

田中委員 募集数と合格者数を見ると、合格者数の方が少し多くなっている理由は何かあるのでしょうか。

奥村教職員課長 昨年度の実績におきまして、合格から実際の採用までの間に地方、全国都道府県、地元も受験して受かった等の理由から、5%程度の方が辞退をしております。したがって、辞退率をある程度見込んで、その分、合格者を多く出しております。

田中委員 もし辞退の方が結果的にいない場合でも、全員採用されると考えてよろしいのでしょうか。

奥村教職員課長 今、欠員がかなり多い状況もございますし、仮に辞退が少なかったとしても、合格者全員を来年4月に採用する見込みでございます。

溝口委員長 合格者人数は、募集人数よりも上回っているということ、今、5%の辞退者というお話がございましたが、例えば中学校の保健体育など、8名のところを12名とっていますね。これは1.5倍ということで、この理由は何かお聞きしたいと思います。

それから、中学校の合計65名のところを79名ということで、かなり人数が増えておりますが、5%増しということも考慮しても、ちょっと多いのかなという感じがするのですけれども、この点はいかがなのですか。

奥村教職員課長 保健体育に限らず、中学校においては、特別支援学級を最初から希望する方もいらっしゃいますので、たとえ保健体育の教科の採用とならずとも、特別支援学級で何年かやってみてから、また保健体育の教員になる方もいらっしゃいますことから、若干、教科によっては多めに採用数を出しているところがございます。

小林委員 募集数ですが、何年か先までの採用数を見込みながら、欠員補充という弾力性を踏まえて決定しているのかどうか、お聞きします。

奥村教職員課長 募集数の決定に当たっては、当該年度の定年退職者数や、さらにはそのほかの理由で退職される数を予想しておりまして、その数に基づいて毎年の募集数を出しているところがございます。

溝口委員長 ほかに何かございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

溝口委員長 この件についてはこれでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

#### 教育委員活動報告

溝口委員長 それでは、次は、教育委員より活動報告をしたいと思います。

田中委員、大山委員、小林委員、私の順に報告させていただきます。

それでは、田中委員からよろしくお願ひいたします。

田中委員 よろしくお願ひします。

8月の教育委員会定例会の前に、県立津久井高校に行かせていただいて、校長先生と対談させていただきました。相模原の中学校を卒業した子たちが県立高校に行くとき、そちらの学校側がどういうふうに入らせてくれているのかとか、そういうことが見えてきました。1校だけですので、それが全てだとは思っていないのですけれども、先生方がどういうふうを考えて入らせているかということが少し見えてきて、本当に安心してお任せできると思いました。

それから、7月の定例会の後には市立博物館にも行かせていただきまして、はやぶさが持ち帰った欠片を見せていただきました。肉眼では見えないと言われていたのですけれど

も、顕微鏡で見せていただいて、ダイヤモンドのようなきれいな輝きに、ちょっとうっとりしましたけれども、実際には目に見えなくてもきれいなものとか、世の中にはそういうものがいっぱいあるのだろうなと感じました。

それから、8月中、教育課程研究会と、あと先ほどご報告がありました教育研究発表大会、こちらの方にも参加させていただきました。先ほども申し上げたとおり、先生方は夏休みでも、このような研修会に参加されたり、部活の指導をされたり、本当に子どもたちのために力を尽くしていただいているなと感じました。

先生方が一生懸命学んでいらっしゃる中に、私も少しだけ身を置かせていただいたのですが、先生方が話し合いをされている姿を見させていただいて、とても素晴らしいなと思いました。

また、教育課程研究会では、それぞれご自身の担当の教科についてお話し合いがされていましたが、その場の先生方もおっしゃっていましたが、こういう場があることがとても有意義であると思います。小・中の先生が、それぞれ連携して情報交換ができたこと、「こういう機会でもないと、なかなかないよね」なんて話をされているのがすごく印象的でした。自分の学校のことはわかっているけど、なかなか、他校では、また他の先生はどういうふうに工夫しているのかということまで、普段はなかなか情報が得られない先生方も多いのかなと思いましたので、ああいう機会はすごく重要だなと思いましたので、ぜひ来年度もよろしくお願いします。

溝口委員長 どうもありがとうございました。

それでは、次に、大山委員、よろしくお願いいたします。

大山委員 私の方は、7月28日の日曜日、やませみ自然体験スクールというところに行ってきました。委員長、委員長職務代理、私と3人で行ってまいりました。

朝早くから、非常に天候にも恵まれまして、目的としては川遊びとバーベキューということでありました。参加者は12家族、40名程度ということでございました。

川遊びについては、大体2キロぐらいでしょうか、川の中を歩いたということで、完走した後は足腰ががたがたになりました。ご家族、保護者、児童生徒さんにつきましては、非常にいい時間を、楽しく過ごせたのではないかと。

たまたま最初のご挨拶のときに、どこかで見かけた人がいるなと思い返したら、たまたまそのご家族の中に私の患者さんがおられて、急遽、班が3つに分かれていたのですが、委員長のグループと私とかわっていただいて、そこに私が属して一緒に回らせて

いただきました。

普段、患者さんとして訪れている方で、ご家族とも非常によく、医師と患者さんの信頼関係が成り立っている方なのですが、こういった楽しい学校生活、それから家族との交流があるのだなということを改めて感じた次第です。

市内に2つ、こういう体験学習施設があるのですが、四季を感じられる場所でもありませんし、多くの方が行かれて、こういった施設を利用して自然体験をしていただきたいと思いました。

それと、8月15日の県立の津久井高校の訪問についてでございます。非常に暑い中でしたけれども、半日、非常にいい、有意義な意見交換ができたと思います。

この津久井高校の特色として、1つは地域性を生かす、地域における学校生活ということで、就職ということにかなり力を入れていました。この学校を卒業すると、1つの例として介護の資格を取ることができるというようなことも言っておられました。もう1つは、保護者の方から、やはり進学にも力を入れてほしいということがあり、そういう面でも地域を生かした高校生活が送れるように、高等学校を運営しているということでした。1つは就職、1つは学力の向上という二面性が求められている中で、かなり積極的に取り組んでおられると感じました。

もう1つは、やはり小・中学校で問題になるような不登校、いじめ、それからスマホの問題、そういったものが話題になりました。中学と同様に、高校でもかなり苦慮していると、対策に対して取り組んでいるというようなお話がございました。

あともう1つは、私が校医という立場でもって、小・中学校に関しては教育委員会を介して連絡がつくというような状況があるのですが、高校につきましてはなかなか連絡がとりにくい。と申しますのは、県の教育委員会を介して、さらに県の医師会というところを介して、私ども相模原市医師会に来るというようなことで、間が大分あるので、できればこういう地域の、相模原市の校長会などと連絡をとって、そういった校医の件だとか、健診のことなどの具体的問題とか、そういったものを話し合っていてはどうかというような提案をしてきまして、今後、話し合いをしましょうというようなことになりました。

以上でございます。

溝口委員長 どうもありがとうございました。

それでは、次に、小林委員、よろしく申し上げます。

小林委員 7月28日、やませみへ行ってまいりました。大山委員のご説明でもう尽きて

いるわけですが、相変わらずこの職員の準備のすごさと対応の配慮のすごさ、これはもう頭の下がる思いでした。

それから、やませみと若あゆの職員をこの事業ごとに交流させているということで、これは非常に効果があるなど。というのは、先日やませみに見えていた方々が、今度は若あゆのキャンプに当選したということで、そこに若あゆの先生がいるわけですので、若あゆで待っていますよということで、とてもよい関係が築けていました。

それから、私、毎年楽しみにしているのですが、教育課程研究会へ行ってまいりました。7月31日は、総則のほうに行つてまいりました。

ここでは、九沢小の細川先生が、運営委員会を核とした教育課程の編成と教育活動の工夫ということで、運営委員会の中核にもなっている教務主任の役割について、非常に努力している様子、さらには、その中で学校経営に一般の多くの先生方に参画してもらおうという意識向上のための際の苦勞が語られました。

午後になりまして、大野南中の伊藤先生ですが、教育課程の中にモジュール学習を導入する実践の報告がございました。この学校では、基礎学力と学習習慣と学習意欲の向上にモジュール学習を充てて、さらに底上げしていこうという意欲のためにこれを入れたということです。非常に、モジュール学習の学習内容と50分の普通の授業との教科内容の関連を非常にしっかり捉えているとともに、モジュール学習の年間計画も提示されました。多分これに参加された先生方は非常に参考になったのではないかと、そんな感じがいたしました。これが31日の総則です。

翌日の8月1日は、道徳と特別活動に参加させていただきました。道徳では、麻溝小の相馬先生より、教科と総合的な学習の時間と道徳の時間、この3分野の深い関連を目指した授業実践の発表がございました。非常にユニークな実践だったと思います。

それから特別活動では、中野中の奥澤先生より、テーマが「よりよい学校生活づくりを意識して」ということで、「神奈川一きれいな学校を目指して」というテーマで発表がありました。発表の中心は、生徒会の活動は自治的活動だと、この活動をしっかりと子どもたちに根づかせたいということで、3つの目指す方向を子どもたちと考えたということです。

1つは、きれいな環境を目指す、ごみ拾い活動、無言清掃という活動。それから、きれいなしぐさを目指す、モラルアップキャンペーン、正しい言葉遣いチェック。それから、きれいな心を目指すということで、挨拶運動といじめ・暴力行為等防止キャンペーン活

動と、そんな生徒会活動の発表がございました。これが教育課程研究会でございます。

その後、津久井高校を8月15日に訪問しました。いわゆる義務教育を終えた子どもたちの高校での生活の様子や教育上の課題等を知ることで、相模原市の義務教育のあり方をさらに検討していこうという目的でお邪魔したわけですが、この学校では中学校からの接続における教育的工夫に非常にたっぷりと時間をかけて、振り返る部分も入れながらやっています。

もう1つは、先ほど大山委員がおっしゃいましたけれども、地域性のある学校づくりに1つの基本理念を据えながら取り組んでおりまして、地元の津久井中央小学校でのボランティア体験等々もうまく取り組んでいるようでございます。

さらには、ここで私、驚いたのですが、数学と英語に関しては習熟度別少人数指導をやっておりまして、進路に合わせた授業設定に非常に意を用いている様子がわかりました。

それから、これは県立高校の校長会で研究しているようですが、高校でも支援教育推進ワーキンググループというのをつくりまして、“困った生徒”から“困っている生徒”へという視点で教育を展開していこうという試みに力を入れているのだと、そういう話を伺いました。

次に、8月2日の教育研究発表大会についてです。私は第8分科会に参加いたしました。ここには地域とのかかわりの部分が非常にあるなということで、最初から最後までこの分科会で聞かせていただきました。まず最初の研究発表は、相模原市の教育実践研究論文の優秀賞であった若草小の大里校長先生の「心理的アプローチによる学校経営」の発表で、非常に丁寧に優しく説明いただきました。本当に教職員一人ひとり、自分の持ち味を生かすための工夫、そして先生方一人ひとりが自分らしくやれるような、そういう経営上の配慮というのですか、その様子が非常によく見てとれました。

それから、もう一本の発表が、由野台中学校の「中学校における発達障害のある生徒の問題行動に対する支援」ということで、カウンセラーと教諭の連携の問題を課題にしていたようです。

調査の目的は、カウンセラーによる支援の実態を把握すること、そして、教師によるカウンセラー活用の実態、どのようにうまく活用しているのか、を把握すること。カウンセラーと教師の連携の方法、そういう視点でもって、質問紙による調査を踏まえた実態把握を行ってありました。カウンセラーによる支援の実態、教師によるカウンセラーの活用の実態、そういうところが浮き彫りにされておりました。

3本目の発表が、「小・中学校との連携と子供たちとの関わり」、これは相武台地区の青少年相談員協議会の発表でございました。小学校との連携では、地域の情報交換や運動会、中学校の連携では、学校行事への参加や懇談会、保護者との連携。非常に広範囲に青少年相談員の方々が活動している様子を先生方は聞いて、ここの部分はほとんど知らなかったという部分がかかなりあったのではないかと思います。

逆に、この相談員の方々においても、先ほどの大里先生の発表や由野台の剣持先生の発表を見て、こういう問題があるのだということが初めてわかったという両方の驚きがあったのではないかと思います。

最後の講評において、青少年相談センターの中里担当課長が、3人の提案に対して、非常に一つひとつ具体的に視点を絞ってお話しされて、その内容は、先生にも地域の方々にとっても、自分の考えを論点整理するのに役立ったのではないかと思います。この会を通して、教育の深まりと同時に、新たな気づきが参加者にもたらされたのではないかと思います。

以上です。

溝口委員長 どうもありがとうございました。

それでは、最後に私の方からでございます。

津久井高校への訪問についてですが、これについては、研究発表大会の日に、私、高等学校がどういう発表をするかということで、第7分科会に出席して、特に高等学校の先生の発表を注意深く聞いてまいりました。

第7分科会では、相模田名高校の先生の発表がございました。この高校では、かなり小学校、中学校との連携をやっておりまして、田名小、田名中との連携をかなり熱心にやっているようでした。

津久井高校でも、先ほどお話がありましたように、津久井中央小とのボランティア活動などをやっているようです。他の地域においても、もっと小・中と高等学校の連携という考えが広まればよろしいかと、これが私の実感でございました。

津久井高校は、660人が定員だそうです。そのうちの約600人が相模原の中学校の卒業生で、他の約60人が厚木市や愛川町などの生徒たちです。定時制については、160人の定員に対して150人が相模原市の中学校の卒業生で、本当に大勢の相模原市の卒業生がお世話になっているということです。

最近は大学への進学実績も向上してきているということで、生徒の進学ということにも



力を入れているということでございました。

それから、もう1つは、私、今、きずなブックというのをやっております。このきずなブックというのは、神奈川県内の教育委員の有志で会をつくっております、それをきずなブックと呼んでおります。もう2年目になりましたけれども、最初は岩手県中心にやってきましたけれども、相模原市としては大船渡市中心に、1校だけですけれども、本を送ってございます。

最近、福島県の方に視点を移しまして活動をやっております。8月22日には、いわき市立湯本第二中学校の校長先生から、事務局の方にお礼の電話があったということです。「新学期に子どもたちが喜ぶます。有効に使わせていただきます。実行委員の皆様によりしくお伝えください」との感謝の言葉をいただいたそうです。これがいわき市支援第1号だそうです。

8月23日には、神奈川県市町村教育委員会連合会の役員会がありまして、そこでご支援の御礼並びに活動状況の報告を飯塚委員から、二宮町の委員長でございまして、報告をさせていただいたということです。

それから、8月29日には、いわき市立中央台南小学校の本の手配が済み、新学期に学校に届くという連絡が、いわき市の鹿島ブックセンターよりありましたということです。

それから、広野町立広野小学校、広野中学校の本は、現在手配中とのこと。

私の方は、以上2点でございまして。

これらについて、何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

溝口委員長 それでは、最後に教育委員会の主なイベント等について、各部長から説明をお願いしたいと思います。

小泉学校教育部長 それでは、お手元の資料をご覧ください。9月の広報カレンダーということでございます。

1ページの1日ですが、これは既に終了してしまいましたが、1日に相模原市の総合防災訓練がございまして、田名北小学校の児童5、6年生が参加をさせていただきました。田名北小学校は防災教育の実践校ということで、今回参加をいたしました。来年は9都県の防災訓練が本番ということで、より多くの学校の参加が見込まれているという活動でございまして。

9月10日になります。さがみ風っ子文化祭の一環でございまして中学校英語弁論大会が

杜のホールはしもとで開催されます。各校の中学3年生、代表の1名がいろいろなテーマをもとに英語でスピーチをいたします。

11日は、全国中学校体育大会の優勝・入賞者の報告会がございます。今回は、柔道の2名、大野北中の飯田君が準優勝、東海大相模の山科君が3位ということで、その報告会がございます。

下段になります。18日、19日が中学生の「職場体験」の支援事業、中沢中学校からスタートいたします。今年度は11校が参加をするということです。中でも、中沢中学校の特色は、2年生、3年生が2日間にわたり、地元の企業であるとか、また病院であるとか、保育園であるとか、そういったところに職場体験に行くというものでございます。

以上です。

小野澤生涯学習部長 それでは、生涯学習関連の事業についてご説明をさせていただきます。

9月3日には、プラネタリウムの新番組ということで、「超巨大望遠鏡～ALMAとTMT～」、これは南米チリにございますアタカマ高地に建設された巨大電波望遠鏡群ということで、そちらの「ALMA」、それからハワイ島マウナケア山頂に建設が計画されています、口径30mの光学赤外線望遠鏡について紹介するとともに、宇宙の謎についてご紹介する番組で、プラネタリウムの新番組で9月から開催をしております。

それに関連して、9月16日なのですが、この新番組に合わせて、JAXAとの連携ということで、JAXAの阪本教授の方から、「アンデスの巨大望遠鏡ALMAで探る星と銀河の誕生」ということで講演をいただく予定となっております。

9月14日、これもやはり博物館であります、館野鴻絵本原画展ということで、ご承知のとおり津久井で天然記念物、貴重なギフチョウの一生をミクロの視点で捉えた命のめぐりを細密に捉えた壮大なスケールを描く話題の絵本の原画展ということで、開催を予定しております。

それから9月22日、津久井町史の自然編の刊行を記念して、津久井にゆかりのある養老孟司さんの講演ということで、津久井町史にも執筆をいただいているわけでございますが、「虫が不思議でおもしろい」というテーマでご講演いただく予定です。

それから、あと9月28日、これは公民館と図書館の連携事業ということで、芸術の秋ということにちなみまして、美術館の楽しみ方を学ぶ講座ということで、3つばかり催しを予定しております。9月28日には、「ミケランジェロの軌跡」ということで、成城大

学の教授に講演をお願いしているところです。あと、10月5日、10月11日と美術館関係の講演会を公民館、図書館で行う予定でございます。

それから、ホームタウンチームについてでございますが、ノジマ相模原ライズにおきましては、いよいよ9月から本格的にXリーグの2013のファーストステージが始まり、日本一を目指して、第1戦が先日8月31日に、川崎競技場で行われまして、19対0で勝っております。第2戦がIBMビックブルーと9月14日、相模原麻溝公園競技場でございますので、ぜひ応援に行ってくださいと思います。

また、9月22日、10月5日、10月20日には、警視庁イーグルス、明治安田パイレーツ、それからオービックシーガルズと対戦予定でございます。

それから、ダイナボアーズが、やはり同じく9月14日になりますが、ジャパンラグビートップイーストリーグということで、トップリーグに返り咲きを目指して、14日の3時キックオフということで、ヤクルトレビズと初戦を行う予定でございます。

それから、SC相模原についても、現在5位におりまして、残り10試合残っております。やはりこれも同じく9月14日、これは他市で、ホームではなくてアウェーということで試合がありますが、ホームについては10月5日に福島ユナイテッドと麻溝公園競技場で対戦する予定でございます。残りのホームについては、10月、11月、2戦ということで、3戦ホームでやる予定でございます。

溝口委員長 各部長から説明がございましたけれども、何かご質問ございますか。

田中委員 質問ではないのですが、先日、うちの近所でお祭りがありまして、ごみ捨て場が何カ所か設置されていたのですが、その場にSC相模原の方々がいらして、すごく積極的に参加されていて、皆さんに「分別をお願いします」と声をかけられていて、持ってきたものに関しては、こちらで預かってやりますということで、ああいう参加の仕方もすばらしいなと思いました。

小野澤生涯学習部長 ホームタウンチームについては、連携支援ということで、こちらからも支援する一方、ホームタウンチームの選手たちについては、都合のつく限り、いろいろな自殺撲滅キャンペーンや選挙の普及啓発活動など、様々な形でボランティア活動をしていただいているところでございます。

シーズンが始まってしまうと、なかなか活動がちょっと難しいのですが、いろいろ積極的にご協力もいただいているところでございます。また、子どもたちとの連携についても、夏休みや春休みなどに、子どもたちの交流を積極的に行っていただけるような形で、こち

らからもお話をさせていただくとともに、向こうからのお話もいろいろいただいているところでございます。

溝口委員長 それでは、この件についてはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

溝口委員長 では、最後に次回の会議予定日ですが、10月17日木曜日、午後2時30分から教育委員会室で開催する予定でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

溝口委員長 それでは、次回の会議は10月17日木曜日、午後2時30分の開催予定といたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、定例会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

閉 会

午後3時47分 閉会